

# ほ ほ え み

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号  
 TEL 0277-44-7171(代) FAX 0277-44-7170  
<http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

桐生厚生総合病院  
 (編集 院外広報編集委員会)

## 地域医療連携室の開設にあたり

地域医療連携室長(外科)加藤 健司

本年4月1日より、当院に「地域医療連携室」が開設されました。

これまで、医事課 医療福祉相談係が担当しておりましたが、独立して専従職員を配置し、地域の開業の先生方と当院とのよりスムーズな連携=病診連携を図ってまいりますので、今後とも、ご協力をよろしくお願い申し上げます。今回はその業務についてご案内いたします。



### 病診連携とは

地域医療連携の基本的な考え方は、地域の中の様々な医療施設がその特色をフルに発揮しつつ、相互に連携することによって1人の患者さんを地域全体で継続的かつ効果的にケアしていくことです。

今後、より一層の高齢化社会を迎えるにあたり、それに伴う患者数の増加が予想されます。その増加した患者さんがどんな病気でもいきなり大病院で診察を受けるとなるのでしょうか? ごく軽い“かぜ”の人から入院が必要と思われる“肺炎”の人までたくさんの患者さんが大病院に集中し、“3時間待ちの3分診療”というような事や、肝心な重症患者の検査や治療が遅れるという現象が発生します。

このような傾向を解消し、よりよい医療を提供するために病院と診療所が適切な役割分担のもと、患者さんを紹介しあう仕組みが「病診連携」です。

地域医療連携の中での病診連携は、まず発病時には地域の「かかりつけ医」に受診し、大病院には専門の治療や検査が必要と判断された場合のみ紹介されて受診する。そして通院治療が可能となれば再び紹介元の「かかりつけ医」に戻るといった効果的な医療連携を目的としています。「かかりつけ医」の先生とは、地域で日々の生活の中に密着し、単に患者さんの病気を治療するだけでなく、その健康な生活を支援していくことのできる開業の先生方です。

### 基本理念

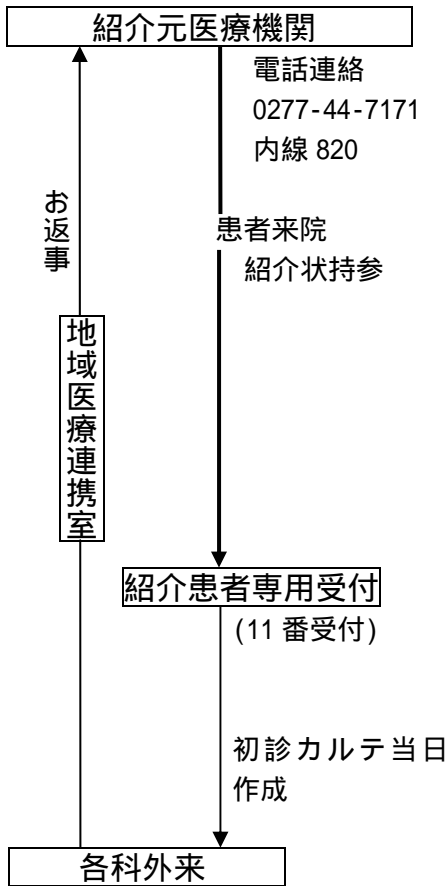
## 向学心と優しさに満ちた医療

### 基本方針

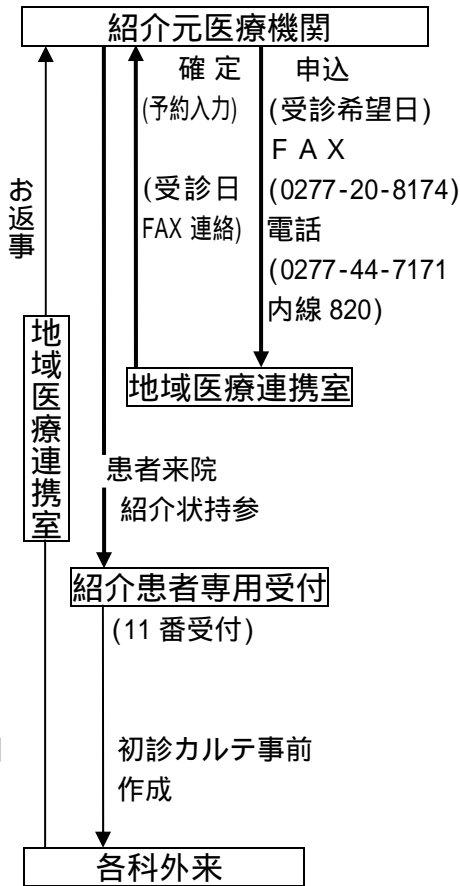
1. 私たちは、患者さんの人権を守り、患者さん中心の安全で優しさに満ちた医療を行うよう努めます。
2. 私たちは、日々研鑽し、患者さんに良質で高度の医療技術と医療サービスを提供するよう努めます。
3. 私たちは、地域中核病院として、他の医療機関との連携を推進し、地域医療のニーズに応えるよう努めます。
4. 私たちは、地域に密着した医療を提供し、地域住民の厚い信頼を得るよう努めます。

# 病診連携システム

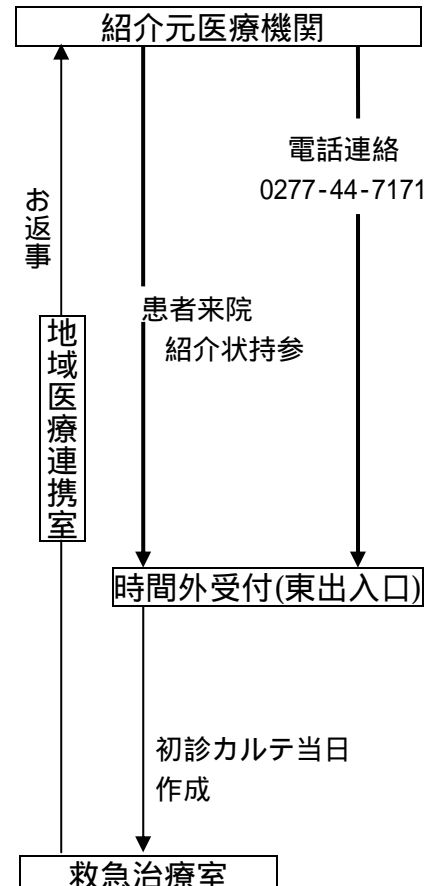
(1) 通常紹介の場合



(2) 事前予約の場合



(3) 救急(休日・夜間)の場合



## 地域医療連携室の業務の内容

1. 紹介状をお持ちの患者さんに紹介患者専用受付を設置
2. 紹介患者さんの事前予約を実施
3. 委託検査 (CT・MRI等) の予約
4. ご紹介いただいた「かかりつけ医」の先生方へのお返事の徹底
5. 退院される患者さんや外来にて症状の安定した患者さんを、「かかりつけ医」の先生方へご紹介いたします。
6. 医療福祉相談

今まではオープンカウンター越しの対応でしたが、今後は、外来患者さんは11番受付の「紹介患者専用受付」で相談の依頼を受けて、カウンター隣の医療相談室及び2階地域医療連携室相談コーナーにて、又、入院患者さんは各病棟から「地域医療連携室」に相談の依頼を受けて、病棟カンファレンスルーム及び2階地域医療連携室相談コーナーにて、専任の医療相談員(MSW)がお受けいたします。



紹介患者専用受付

地域医療連携室は、地域の開業の先生方と連携し、地域の皆様の健康維持と、安心して信頼できる医療の提供にお役に立ちたいと思っております。何卒ご理解、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

# 放射線科の紹介（１）

放射線科は、放射線専門医 2 名、診療放射線技師 16 名、看護師 4 名、事務職員 1 名の計 23 名のスタッフで画像診断および放射線治療を行っています。

画像診断部門では、一般 X 線検査・消化管造影検査等のほか、X 線 CT 装置、MRI 装置、核医学診断装置、血管撮影装置などの高度医療機器を用いた画像診断情報を提供しています。各検査の実施にあたっては、患者さんの被曝線



放射線科受付



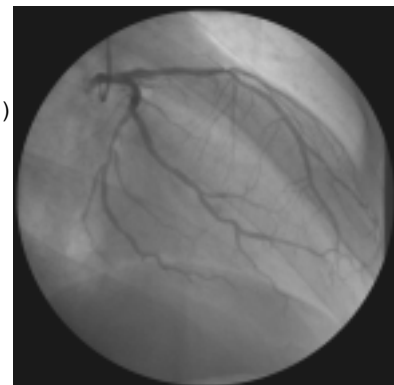
撮影操作室

量の軽減や安全にも十分配慮し、安心して各種検査を受けていただけるように心がけています。また、将来予想される大規模なネットワーク化にも対応できるように、コンピュータ上で画像が取り扱えるようにデジタル化し、医療画像情報システムの構築を進めています。

このたび心臓血管撮影装置を更新しました。先天性心疾患や心筋梗塞などの虚血性心疾患で緊急を要する患者さんに対して、いつでも検査を受けていただけるように 24 時間体制で受け入れの準備を整えています。また、小児の患者さんには 1 回の手技で同時に 2 方向が撮影でき、負担が少なく各検査で得られたデータをもとに最新の心臓血管解析機能を用いて、様々な疾患についての的確な診断を行っています。



心臓



冠動脈造影

また、X 線撮影装置も更新され、高精度の平面検出器型デジタル撮影装置が導入されました。これにより、X 線撮影に伴う被曝が軽減され、適正な X 線フィルムができるまでの時間が短縮されました。



心臓血管撮影室

放射線科では、今年度高性能な MRI 装置の増設と精密な放射線治療が可能な高エネルギー放射線治療装置が導入されます。これまでご迷惑をおかけしてきました MRI 検査の待ち時間も短縮され、院外の医療機関からの検査依頼にも素早い対応が可能となります。今後とも放射線技術を駆使し各医療機関と病診連携を積極的に推進

できるように放射線科スタッフ一同努力していきたく思います。

# リハビリテーション科の紹介(1)

リハビリテーション科では、理学療法士（PT）7名・作業療法士（OT）2名・言語聴覚士（ST）1名・受付事務1名・助手2名にて業務を行っています。



リハビリの外観



訓練室の様子

## 回復期リハビリテーション病棟がはじまりました。

回復期リハビリテーション病棟とは、急性期医療を脱した対象患者さんに対して、日常生活動作能力の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリテーションプログラムを、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療相談員（MSW）等が共同して作成し、これに基づくりハビリテーションを行うための病棟です。

対象患者さんとは

1. 脳血管疾患・<sup>せきずい</sup>脊髄損傷等の発症後3ヶ月以内の状態
2. <sup>だいたいこつ</sup>大腿骨骨折・<sup>かし</sup>下肢または骨盤等の骨折の発症後3ヶ月以内の状態
3. 外科手術または肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群( )を有しており、手術後3ヶ月以内の状態
4. 前3項目に準ずる状態



カンファレンスの様子

平成15年4月より6階東病棟に32床で開設されました。今まで以上に多職種間のチームワークを重視し、患者さんの意向に沿った統一されたアプローチが実施していけるよう努力していきます。

廃用症候群……疾患により長期にわたり寝たきりの状態におちいると身体の運動量の不足・低下により運動障害・循環障害・排泄障害・精神障害・感染症等が併発しやすくなります。こうした状態を廃用症候群と言います。

# 意見箱だより

私は、長年厚生総合病院で診ていただいている患者ですが、薬の件でお尋ねします。  
外来で診察後、薬を出していただいておりますがその薬のことです。

前に出ている薬は止め、今日出したのを飲むように言われました。これでは前の薬が無駄になりもったないです。どうしたらよいのでしょうか？

厚生総合病院の薬の袋が大きすぎるのではないのでしょうか？どのような理由なのですか。

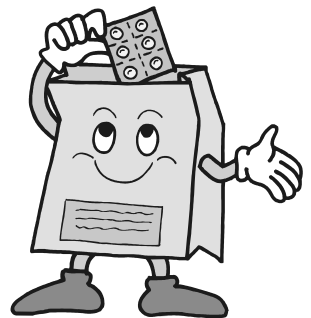
## 《回 答》

薬は患者さんのその時の症状に合わせて、必要な分を医師が処方いたします。しかし、患者さんの都合や容体が変わり早めに来院され受診・診察され、その結果薬が変わる場合があります。そこで薬が変わるようでしたら、余っている薬のことを医師にお話され、相談してみたらいかがでしょうか？または、薬の投与期間を短くしてもらうのはいかがでしょうか？どちらにしろ、医師に相談することをおすすめいたします。



薬の袋が大きすぎて無駄であるというご指摘ですが、眼科の患者さんやお年寄りの患者さんから分かりやすくしてほしいとの要望もあり、薬の使い方により袋を分けております。(写真参照)  
当院では無駄のないように、袋の種類は最低限の数を使用しているつもりです。

薬の袋はその薬の飲み方が書いてある大切な袋です。それによって袋の種類が多い患者さんの場合は、小袋を大袋に入れ安全に自宅まで持ち帰れるようにしております。薬の量に比べて若干大きめの袋に入れる場合がありますが、なにとぞその所はご理解いただければと思います。



【患者サービス向上委員会・薬剤部】



外来担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。